

第 16 回和光市下水道事業運営審議会会議録

令和元年 11 月 21 日（木） 602 会議室

第 1 6 回 和 光 市 下 水 道 事 業 運 営 審 議 会			
開 催 日	令和元年 1 1 月 2 1 日 (木)	開会時間	1 4 時 0 0 分
会 場	市役所 6 階 全員協議会室	閉会時間	1 5 時 3 0 分
委員の出欠	出席	欠席	事務局
	長坂 敏史 串田 幸彦 富澤 勝 近藤 やす子 今井 千津子 舩越 靖彦	村上 誠二 浜口 武 富澤 美代 萩原 三枝子	上下水道部長 戸田 伸二 企業経営課長 深野 充司 水道施設課長 佐々木 一弘 企業経営課課長補佐 結城 幸子 下水道課課長 本橋 勝己 企業経営課経営担当 統括主査 山崎 智恵子 企業経営課主査 矢萩 美和
議題等	・委員紹介 (1) 会議録署名委員の選出 (2) 下水道事業の経営状況について (平成 3 0 年度下水道事業決算について) (3) 下水道事業中期経営計画達成状況報告について (4) 下水道事業経営戦略について 傍聴者 0 名		

発言者	内 容
事務局	<p>開 会</p> <p>本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>それでは第 1 6 回和光市下水道事業運営審議会を開催いたします。</p> <p>本日の会議は、和光市下水道事業運営審議会条例第 6 条第 2 項の規定により過半数の出席を得ております。</p> <p>また、本日の会議は、市民参加条例の規定に基づき、公開とさせていただきます。併せて、会議録につきましては、同条例の規定に基づき、公表してまいります。</p> <p>次に、本日配布いたしました資料の確認をいたします。お手元の資料をご覧ください。</p> <p>資料確認</p> <p>ここで、新たに和光市下水道事業運営審議会委員になられた方を紹介いたします。和光市自治会連合会からご推薦いただきました、富澤勝様です。よろしくお願ひい</p>

富澤委員
事務局

たします。

山田様の後任の富澤でございます。よろしくお願ひします。
お願ひいたします。

富澤様には、山田智好様のご後任ということで、副会長をお願ひしたいと存じます。
よろしくお願ひいたします。

次に、本日はご欠席されていますが、和光市商工会からご推薦いただきました、浜口武様です。

それではまず、上下水道部長からご挨拶を申し上げます。

戸田部長、お願ひいたします。

上下水道部長

皆様こんにちは。

今年度より上下水道部長を拝命いたしました、戸田と申します。本日は、令和元年度和光市下水道事業運営審議会の開催にあたりまして、会長、委員各位におかれましてはお忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。

本日の議題は、「下水道事業の経営状況について（平成30年度下水道事業決算について）」、「下水道事業中期経営計画達成状況報告について」、「下水道事業経営戦略について」ということになっております。

そのひとつである経営戦略とは、将来に渡り安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画です。その中心となるのは「投資試算」や「財源試算」等の支出・収入の将来予測で、それらの収支均衡が図れる形での財政計画を策定することとされています。これは、総務省からの要請を受けて策定するものであり、策定の期限は令和2年度となっております。当市は、市内に地域の処理場を有していることや、ほぼ全量を自然流下できるというアドバンテージを有しており、また、投資的事業展開から維持管理型事業に推移している状況にあるため、経営は比較的安定しているものと考えております。

今後、和光市の下水道事業が更に盤石なものとなるよう、ご指示のほどよろしくお願ひ申し上げます。

事務局

ありがとうございます。

なお、本日は経営戦略の委託先であります、株式会社東洋設計事務所から、廣瀬様、肥田様、田巻様にお越しいただいております。

それでは、議事に入らせていただきますので、長坂会長、よろしくお願ひいたします。

長坂会長

では、よろしくお願ひいたします。

それでははじめに、本日の会議録署名委員の指名を行います。

第3号委員の富澤勝委員と第4号委員の舩越委員にお願ひしたいと思いますが、両委員、よろしいでしょうか。

【両委員了承】

それでは両委員、よろしくお願いいたします。

次に、議題（２）の下水道事業の経営状況について事務局から説明をお願いします。

皆様こんにちは。

この会議の主管課長であります、深野でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、資料２の「平成２９年度埼玉県和光市下水道事業決算報告書（抜粋）」をご用意ください。初めに、９ページの１の業務量をご覧ください。

平成３１年３月３１日現在の水洗化人口、これは下水道を利用している人口ですが、これは前年度より１，０３８人増加して７９，４３７人となり、水洗化率は前年度より０．０３ポイント増加して９８．８６％となりました。また、処理水量は、前年度より１３２，１７５ｍ^３減少して８，３６４，８０３ｍ^３に、有収水量は前年度より４７，９２０ｍ^３増加して８，６４６，５４２ｍ^３になり、有収率は１０３．４％となりました。

こちらは、水洗化人口、つまり下水道につないでいる人口が前年度１，０３８人増えており、順調に数字が伸びているということになります。それに伴い、水洗化率という、下水道につないでいる人口の割合も９８．８６％に伸びました。

処理水量は約１３万ｍ^３ほど減少しましたが、これは、雨の量によっても左右されますので、極端に量が減ったという解釈はしておりません。それに伴い、使用料収入に反映される有収水量は増加しましたが、通常は１００％を切るものですので、有収率が１００％を超えるということについては、はっきりとした理由は分かっていません。しかし、使用料として反映される有収率が１００％を超えることはありがたいことだと考えています。

続いて経営・財務についてご説明します。

事業収益は、１，１２３，８３５，２１５円で、そのうち下水道使用料収入は前年度より０．８％増の６０８，５２０，１５２円でした。事業費は９５９，１２９，００３円で、純利益は１６４，７０６，２１２円となりました。この額は、５ページ目の損益計算書の「当期純利益」の額と一致しています。

次に、１０ページのキャッシュ・フロー計算書は、現金の流れを示したものです。一番下の期末の金額３９４，４５９，９９４円は、７ページの貸借対照表の現金預金の額と一致しており、この額の現金が平成３０年度末にプールされていたこととなります。実際には、８ページに未払金があり、未払金の額が３月３１日に払いきれていないことになっていますので、未払金を現金残高から差し引くと約１億５，０００万円が最終的な残高となります。以上のことから、先ほど部長からも話がありましたとおり、事業内容としては、順調と言えると考えています。

決算状況の報告については、以上となります。なお、この決算については、９月に行われた定例議会において審議され、承認されましたので報告申し上げます。

ただ今の説明に対して、何かご質問はございますか。

富澤(勝)委員
長 坂 会 長

9ページの②の、事業収益11億円と使用料収入6億円の違いは何ですか。

ただ今の質問は、事業収益の11億円と使用料収入の6億円との差額についての質問ですね。

企業経営課長

企業会計の予算には、雨水と汚水の部分がありまして、使用料は、汚水を処理するための原資として市民の方からいただくものとなります。それ以外の収入としては、雨水は公費負担、汚水は私費負担という考え方をもとにしているため、その差額の大半は、雨水を処理するためにいただく市からの負担金です。

それらを合わせると約11億円になります。

富澤(勝)委員
企業経営課長

事業費の9億5,000万というのでしょうか。

事業費は、雨水と汚水を処理するための費用です。

富澤(勝)委員
企業経営課長

事業収益と事業費用を差し引いて、残ったものが純利益ですね。

そうです。

水道事業の場合は水道料金で賄っていますが、下水道事業は雨水と汚水の二足の草鞋を履いているような状態ですので、公費と私費の両方で賄っています。

富澤(勝)委員
長 坂 会 長

分かりました。

5ページの損益計算書では、下水道使用料が6億800万円、他会計負担金が2億5,100万円とありますが、11億と8億の差である2億数千万円というのは、営業外収益ということですか。

企業経営課長

はい。営業外収益でも負担金を受けています。県の決算統計等の区分けに従って処理していますので、科目としては細かい区分けになりますが、一般会計からは約4億円の収入があります。

長 坂 会 長

では、8億6,000万円と営業外収益の2億6,000万円を足すと約11億円になるのですね。

企業経営課長
長 坂 会 長

はい。そうです。多少、細かい収入はありますが概ねそうなります。

他に質問はありますか。

船越さん、何かございますか。

船 越 委 員
企業経営課長

汚水の処理量は分かりましたが、雨水の処理量も計測しているのですか。

雨水については、処理基準はありますが処理量は測っていませんので、量は出てきません。雨水に関しては、一時間にどのくらい処理できるのかという基準はありますので、それに従って管路を作って自然に流しています。汚水は処理場があるので量を測っています。

上下水道部長

和光市は分流式で雨水と汚水を別々に放流しています。

雨水は新河岸川に放流していますが、河川放水量が決まっているので、それに応じて口径を決めて雨水管を埋設し、雨が降ると雨水はその管路を通過して新河岸川や白子川に放流されていきます。

汚水につきましては、各家庭の枡から本管に流れ込み、近くにある荒川の処理場に

流れて、そこで処理されたものが荒川に放流されるということになっています。

長 坂 会 長

東京都のように、雨がたくさん降ると雨水と汚水と一緒に溢れてしまうということはないのですね。

上下水道部長

はい。

長 坂 会 長

他に質問はございますか。

なければ、議題（２）の下水道事業の経営状況についての審議を終了いたしまして、続いて、議題（３）の下水道事業中期経営計画達成状況報告について、事務局から説明をお願いします。

下 水 道 課 長

それでは、中期経営計画の達成状況報告についてご説明いたします。下水道課長の本橋です。よろしくお願いいたします。

資料３をご用意ください。

この計画は、平成２１年３月に平成２１年度から平成２５年度までの５か年計画で策定した前回計画に続く、平成２６年度から平成３０年度までの５か年の第２期計画として、下水道事業のあるべき姿や方向性を明らかにするために策定しました。

計画期間が終了しましたので、平成３０年度の決算結果を受け計画の達成状況を公表するものです。

１ ページをご覧ください。

１ 計画策定の経緯は、今述べたとおりです。

２ 下水道の整備及び経営状況については、整備状況は平成３０年度現在で整備面積 762ha、処理区域内人口 80,350人、水洗化率 98.86%となりました。

経営状況は、平成２５年度末の経費回収率は 80.2%でしたが、平成３０年度末で 96.9%となり、平成２６年４月から地方公営企業法を適用した企業会計方式により事業経営をしています、経営状況は良好といえます。

２ ページをご覧ください。

３ 事業計画の実績の表は、計画と実績を対比して表しています。

収益的収支において、総収益の計画と実績の対比では、計画を 1億5,000万円程度上回っています。

３ ページの総費用の計画と実績の対比は、ほぼ計画のとおりとなっています。毎年純利益が発生している状況です。計画では、純利益がなかなか出ない試算をしていましたが、実績としては純利益が発生している状況です。

４ ページは、資本的収支の資本的収入です。収入の主な要素は地方債借入、一般会計からの負担金や補助金、国からの補助金や交付金、工事負担金となっています。地方債の借入は、資本的支出の建設改良事業の実施規模と連動していて、工事と連動しています。他会計負担金・補助金は計画より実績のほうが少ないため、資本的収入総額としても計画より実績が下回っている状況です。

資本的支出は、建設改良事業と地方債の元金償還金が主な支出の要素となっています。元金償還金額は、毎年3億8,000万円くらいの支出となっています。計画との対比では、資本的支出は建設改良費の事業量に左右されますが、おおむね計画通りです。

5ページの⑤企業債残高は、今、どのくらいの借入残高があるのかを示しています。実績の方の表をご覧くださいますと、平成26年度末の合計残高が41億9,400万円で、平成30年度末の合計残高が30億1,500万円となっていますので、この5年間で、総額11億7,900万円減額したことになり、計画通り順調に残高を減らしたことになります。

(2) 将来需要予測(汚水整備事業)は、汚水事業における整備の状況を示していて、平成30年度の計画が779haに対し、平成30年度の実績は761.53haですので整備面積は計画を下回りますが、処理区域内人口や普及率は計画の数字を上回り良い実績となっています。

(3) 中間指標ですが、1㎡あたりの使用料単価は平成30年度の計画が70.2円であるのに対し、平成30年度の実績は70.38円でしたので、若干ではありますが実績が上回っています。一方、汚水処理原価という汚水を処理するためにかかる経費は、平成26年度が78.75円かかっていたものが平成30年度には72.67円になりましたので、計画を下回るものの減少傾向となっています。これは汚水処理にかかる経費が減少してきた状況を示しています。経費回収率も、計画を下回っているものの、上昇傾向であるため良い実績と言えます。

次に、6ページの主要施策の①下水道の整備は、平成26年度から平成30年度まで、污水管1,361.7m、雨水渠を308.4m整備しました。

②老朽化施設の計画的改築更新としては、下水道施設のテレビカメラ調査等を実施し、破損箇所等を随時補修し、事故の未然防止などに取り組んできました。

③総合地震対策は、平成29年度に「和光市下水道総合地震対策」を策定しました。平成30年度に主要汚水幹線などの耐震診断を実施し、令和元年度は耐震工事の設計を行い、令和2年度に工事を行う予定です。

④健全な財政運営は、平成31年度(令和元年度)予算の策定から、一般会計からの赤字補てんの補助金をなくすことができおり、下水道事業発足当初からの目標が達成されたということで健全化が図られていると言えます。

(5)の財政投資の計画と実績は、6、7ページに記載のとおりです。年によりばらつきはありますが、おおむね污水管は計画を上回る整備実績を残しています。一方で、雨水渠は計画をやや下回る実績となっています。改築更新は、マンホールポンプの更新を主に実施しており、市内全域に15か所あるポンプを毎年1か所ずつ計画的に更新しています。地震対策は、先ほど説明した総合地震対策による工事を行うことで地震対策の実績を上げていく予定です。

7ページの(6)定員管理に関する計画については、平成18年4月に職員が10名から9名に減員し、このまま継続している状況です。ただし、9名のうち1名が企業経営課、8名が下水道課の所属となっています。

(7)給与の適正化に関する計画は、平成19年4月1日に国基準に合わせて給与構造改革を実施済みで、このまま継続している状況です。

4経営基盤強化への取組状況は、(1)経営改革への取組みの②水洗化率の向上では、未接続世帯への戸別訪問による啓発を実施し、平成26年度から平成30年度までで106件の新規接続の実績があり、水洗化率の向上を図ってきました。

8ページの④公営企業会計の法適用化による経営強化については、平成26年度から実施し、経営基盤の強化に取り組んできました。

⑤下水道使用料の見直しについては、平成22年度に、当下水道事業運営審議会のご審議による答申により、平均引き上げ率19.43%の料金改定を平成23年4月分から実施しました。平成28年度の当審議会で審議していただいた「和光市健全な財政運営に関する条例」による、使用料見直しが必要かどうかの審議結果では、下水道使用料の値上げの必要性は無い旨の意見をいただきました。

(2)人材育成の取組については、各種研修会に参加し、公営企業に必要な知識・技術の取得などに努めてまいりました。

以上で中期経営計画達成状況報告書の説明を終わります。

ありがとうございました。

健全な経営ということで、一般会計からの赤字補てんが無くなったのは嬉しいことですね。

皆様も、何かご質問等はございますか。

串田委員。

数字のことで気になる点が何点かあります。一つ目は、5ページ目の企業債残高の単位が百万円単位になっているので、他の箇所と合わせて千円単位にした方が良いと思います。4ページ目の企業債償還金と見比べたときに数字が変な気がしたのですが、単位がここだけ百万円単位になっていて、誤解を生みそうなのでここも千円単位にそろえられたらどうかと思います。桁数的にもここに入るのではないかと思いますので。

6ページ目から7ページ目の財政投資計画ですが、単位が百万円となっているところに、計画の方は百万円単位で入っているようですが、実績の方は1円単位で入っているようなのでここは訂正が必要かと思います。

内容については、特にありません。

単位を統一するということですね。

数がすごく大きくなるのでびっくりさせられましたね。

また、内容について一つ言わせていただくと、総合地震対策のマンホール浮上防止対策工事を今後実施していくとなると、令和2年度に行う事が決まっているのであれ

長坂会長

串田委員

長坂会長

串田委員

ばこれは書かれた方が良いのではないのでしょうか。

私の方からは以上でございます。

長 坂 会 長

ありがとうございました。

他にございますか。

串田委員からご指摘いただいた財政投資計画のところからです。計画の建設費のところで見ると、平成28年度が1億7,800万円、平成29年度が2億5,900万円、平成30年度が2億5,000万円となっていますが、実績では、平成28年度はゼロ、平成29年度は1億5,000万円、平成30年度は1億2,600万円、と、建設費が計画をかなり下回っているのですが、何か特別な理由があるのですか。

下 水 道 課 長

平成28年度の実績はゼロとなっていますが、これは、この年に予算化していた工事が繰越しになりまして、平成29年度にかけて実施することになった経緯があります。

長 坂 会 長

あと、地震対策についてはやってらっしゃいますけれども、より広く「災害対策」としてはどうでしょうか。考えておられますか。

下 水 道 課 長

「雨水事業」という意味では、優先度を付けて進めています。

過去に冠水した箇所や床上床下浸水の被害に遭った箇所を優先してやってきたところなんです。

しかし、最近では、短時間で急激に豪雨になることがあり、基準として、1時間当たり55.5mmの降水量に対応できるような排水管を埋設する等の対策をしていますが、短時間のうちにそれを上回る場合もありますので、今後、道路の対策とともに、また、河川管理者とともに行う制度も視野に入れて考えていく必要があると思っています。

台風19号では、和光市はそれほど広域にわたって浸水したという報告は無かったので、今後も引き続き雨水管整備に努めていきます。

長 坂 会 長

最近の災害の性質が変わってきているので、今度の計画では、そのあたりの長期的な対策もお願いいたします。

富澤(勝)委員

③の総合地震対策で耐震診断をしたということですが、結果はどうでしたか。

下 水 道 課 長

まず、耐震診断を行った箇所ですが、和光市の下水道の大動脈と言える荒川右岸の終末処理場に向かっていく主要な幹線がありますので、そちらの方から行いました。

管路自体に問題はなかったのですが、マンホールの液状化対策が必要な箇所が69箇所ありました。令和元年度は設計、令和2年度は対策工事を行っていきます。

富澤(勝)委員

管路はどうですか。

下 水 道 課 長

今回は対象ではありません。

富澤(勝)委員

細い管路についてはどうですか。

下 水 道 課 長

今後順序立てて市内全域を区域分けして順番にできたらと思っています。

富澤(勝)委員

和光市の下水道の全長はどれくらいありますか。

下水道課長

污水管は全長約151kmです。

幹線と呼ぶ重要路線と、避難所に繋がる箇所等、市が指定している管路を最優先して対策を実施していきます。

富澤(勝)委員

料金の滞納はありますか。

企業経営課長

滞納はあります。

上水のみを利用している方もいらっしゃいますが、通常は上下水道の料金等は一緒にお支払いいただいています。収納率は98%以上ですが、和光市は引っ越しが多いので、手続き漏れによる払い忘れが出てしまうこともあります。調べてみると新しい住民が既にその部屋に住んでいるということがあります。引っ越し先を追うことができれば当然連絡をしますが、中には全く分からないこともあります。この部分が残りの1%強の部分の事情です。その点については委託業者がかなり努力して、どうしてもお支払いいただけないところには、毎月停水をかけています。だいたい平均で毎月40件から50件停水をかける作業をしています。ここには下水道も関係してきますので、このようなことを繰り返しながら、現在の収納率を保っているところです。

富澤(勝)委員

上水と下水道の料金の計算はどうなっていますか。

企業経営課長

別々の計算式で計算しています。下水道使用料は、上水で使った分を下水道に流れたものとして計算しています。

散水栓の場合もありますが、その場合は独自にメーターを付けていただいていますので、下水道使用料はかかりません。

長坂会長

船越委員、どうぞ。

船越委員

収納率について、近隣の状況はどうですか。

企業経営課長

正確には分かりませんが、そんなに悪い状況ではないのではないかと思います。

この近隣は人口も安定していますし、使用料も安定して入ってきているように思います。そのため、経営が圧迫されるような状況にはなっていないと思われます。

同じ下水道でも埼玉県の中で経営状況の格差はあります。ここは荒川右岸ですが、反対側の荒川左岸も経営は安定しているようです。

埼玉県内の北部では、下水道の同じ処理でもここよりも高い費用がかかるなどの差があるのが現状です。これが埼玉県の課題だと思います。埼玉県は、県内を統一料金にしていくことをつい最近までうたっていましたが、地域によって差があるので難しいだろうと思います。和光市としては、統一料金にしないでほしいと言ってきています。

埼玉県からすると県内の下水道使用料の会計はどんぶり一つですが、和光市は荒川右岸流域の会計状況を見ているので、その点でギャップが生じています。これが、埼玉県の課題のように思われます。

近藤委員

近所に空き家があるのですが、水道の停止は勝手にはできないのですか。

企業経営課長

ご本人様からの申し出がなければ、勝手に水道を中止することはできません。

空き家だからといって、もし止めてしまってもその後には事故が起きたら大変です。今、空き家に関しては全国的な問題になっていて、子どもが相続しないなどの問題もあり、市の裁量で空き家を壊すなり、別なことに利用するなり、少しずつ色々なところで動きが出ています。ですので、今は実際の取組みは無いかもしれませんが和光市も少しずつ対応していくのではないかと思います。

今井委員

台風19号は色々なところで大変な被害をもたらしていましたが、短時間であれだけの雨が降ると和光市で降った雨はどこへ行くのかとても心配になります。今、お話にあった右岸・左岸の処理場で氾濫や溢水が発生した場合には、処理は大丈夫なのでしょう。

下水道課長

実は、台風19号は大雨でしたので、汚水管に大量の雨水が混入し、汚水の処理状況にも影響が出て、和光市のホームページにも掲載しました。実際に和光市内で大きな被害が見られなくても、荒川右岸の処理場は、13市町が利用してしまっていて、その中には、台風によって大きな被害があった川越市や入間市も含まれていましたので、それらの地域からも通常の汚水に加え、雨水が入り込んでいたのだと思います。マンホールの構造上、雨水が流入してしまうこともありますので。

しかし、処理場では、河川の氾濫があっても汚水処理できるような対策をとり、最低限の機能は維持できるようにしています。

上下水道部長

台風19号の降雨の関係ですが、和光市に降る雨水は、全て新河岸川に流れ、東京湾に向かいます。

台風19号では、新河岸川流域にまんべんなく二日間雨が続き、約350mmの雨が降りました。新河岸川の堤防ぎりぎりのところまで水位が上がりまして、あと数時間降雨が続いた場合は、もしかしたら長野県や福島県の状況と同じようになった可能性もありました。夜中の12時くらいの時点で雨や止んだというのは、和光市や板橋区や北区のあの辺の住民にとっては非常に幸運だったということになると思います。

長坂会長

このようなときに市民にとって最も心配なのは災害対応ですね。

これまでの想定とは違う状況が起こっていますので、その前提条件も変えて、やっていただきたいと思います。

建設費はかかりますが、想定を変えてでもぎりぎりのところでやってもらいたいと思います。

3ページ目の純利益ですが、当初の計画より1億円くらい多くなっているのですが、最初は厳しめの見積りだったのですか。

ここまで数字が開いてしまうと、比較することがどうかということにもなりますが。

下水道課長

そうです、厳しめでした。最終的に、平成30年度くらいに純利益が出始めるようなイメージを持っていました。

企業経営課長

策定当時とは会計が変わりましたので、その事情も含めて単純な比較はできない状況です。

長 坂 会 長

算出の方法も違いますしね。分かりました。

他に、ご質問等はございますか。

無いようですので、議題（３）の下水道事業中期経営計画達成状況報告については終了いたします。

次に、議題（４）下水道事業経営戦略について、事務局から説明をお願いします。

企業経営課長

それでは、資料（４）の下水道事業経営戦略についてご説明いたします。

本日は、概要版を皆様にお配りしています。

１ページ目中段の「経営戦略の位置づけ」をご覧ください。下水道事業経営計画は、平成２６年に総務省が「公営企業の経営に当たっての留意事項について」を通知し、将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な基本計画である「経営戦略」の策定の要請を受けて策定するものです、と書いてありますが、総務省から、今後、平成３２年度までに、つまり、令和２年度までに経営戦略を作るように、という指示に基づき、今後の経営計画を中期経営計画に代わる１０年間の計画として策定しています。

経営戦略の大本は、市の総合振興計画の都市計画事業ですが、他に、アセットマネジメントという観点を取り入れて策定することになります。これまでは、古くなったら壊して新しい施設を建てるということをやってきましたが、今後、少子高齢化等で人口が減っていくときにこれを繰り返していると当然のことながらお金が無くなっていくことが目に見えて分かるようになってきました。

実際に、破綻してしまうような自治体も出てきていますので、下水道では、長寿命化という考え方のもとに下水道の管路等もできるだけ長く使っていきましょうということになりました。その他にも、少子高齢化等によって過疎化が進み使わなくなった学校等を道の駅やレストランとして活用するような例もありますので、今後は「施設管理」をしていかななくてはいけないということを前提において、経営戦略を作っていくということです。経営戦略の計画期間は、中期経営計画の５年間より長い１０年間で、令和２年度から令和１１年度までの計画ということになります。また、アセットという投資の面では、３０年という期間で見ていくことになり、向こう３０年間でどのくらいの費用がかかるかということを見計画的に見て、これを平準化して計画を立てていくことになります。実際に各年度でどれだけかかるのか、どれだけの予算を立ててやっていくのか、というところになってきます。こうした背景にあるのは、１ページの一番上にあるとおり、下水道事業では全国的に人口減少による排水量の減少に伴う収入減が続く中、整備した施設が老朽化し、施設の更新や耐震化に多大な費用が必要となるということがあります。また、総合地震計画にもありまして、今後、災害に対応する莫大な費用がかかってくるが見込まれることを考えていくと、これから厳しい経営が予想されてくるということになります。これらを踏まえて計画を

立てることによってそれらに対応していくということを前提として今後対応していきたいと考えています。

資料4の2ページ目、人口の予測については、現在策定中の第5次和光市総合振興計画の人口推計によると、和光市は非常に恵まれており、人口は右肩上がりとなっています。経営戦略で用いる人口は、水洗化人口の実績値などから、調整を加えた人口となっています。これを見ても10年間は人口の減少は無いと見込まれます。人口の増加に伴って、使用料収益は少しずつ増えていくだろうということがグラフで示されています。経営状況としては、背景で述べている状況はすぐには起きてこないだろうと考えています。

3ページ以降では当期純利益、企業債残高と自己資本比率、5ページでは当期純利益、資金残高及び自己資本比率の指標について上昇傾向にあります。ただし、これは、借金をしないということではなく、先ほど下水道課長も説明したとおり、将来的に費用を分担していくという考え方がありますので、毎年必要となる工事の費用については、起債をしていきます。

シミュレーション上では、将来的には起債して償還しても会計の面では明るい状態となっていますので、汚水の使用料の改定はしばらく保留とし、安定経営に努めたいと考えております。

今後、正式なものは年内を目標に作成し、それをまた皆様にお送りいたします。1月下旬から2月の月上旬に次回の審議会を開催し、引き続き審議をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

なお、使用料改定を保留にする理由としては、和光市内にある処理場における処理費用が令和5年度まで1㎡当たり32円に据え置かれたことがあります。使用料改定に関しては、現段階においてはしばらく行わないと考えておりますが、経営戦略は10年間の計画なので、中間年となる5年後くらいに内容の見直しをしたいと考えております。

資料の4ページをご覧ください。

そちらに、「雨水公費・汚水私費」との記載があります。

下水道では、雨水にかかる費用は公費で、汚水にかかる費用は使用料で賄うという原則があります。公費というのは、一般会計からもらう繰入金や県や国の補助金、起債という借金を意味し、これらで費用を賄っていきます。それから、汚水に関しては皆様からいただく使用料で賄うこととなります。しかし、和光市の下水道事業は平成26年度から企業化した当初から汚水部分についても市からの援助を受けていました。ですが、下水道課長からも説明があったとおり、令和元年度からはその援助がゼロになりました。今後も、この状態を維持できるよう、引き続き努力していきます。

以上です。

ありがとうございました。

長 坂 会 長

近藤委員	<p>経営戦略はまだ途中ですので、来年になってからご報告いただくということでした。お話の中では、おおむね順調に進んでいるという話で大変心強い概要をいただきました。ただいまの説明に対し、ご質問等はございますか。</p>
企業経営課長	<p>値上げについて、分からない市民も多いと思います。神戸では春に値上がりするという話がありましたけれど、そういう話が出ると和光市も上がるだろうと思う人がいます。そのようなときは、和光市は大丈夫そうですよと少し話しています。</p>
長坂会長	<p>和光市は、上水も下水も全国的にも料金が低い方です。和光市は、まち全体がコンパクトにまとまっていますので、下水道管を一本埋設すると、その管を使う軒数が多いので、過疎地に比べると効率的に管を使用できているという現状もあるためです。過疎化が進んだ地域では、1kmの管を埋設しても一軒つなげるかどうかというところもありますので。</p>
企業経営課長	<p>今後は、広報等で使用料の低さについてもアピールしていきたいと思います。その点については、市民としては、安心していただけるというメッセージにもなりますので、良い面もあると思いますが、広報しすぎて良いのかという考え方もあります。</p>
長坂会長	<p>難しい面もあります。今回、消費税分の転嫁をさせていただくことについて、広報に掲載したのですが、来年1月の引き落としから使用料に転嫁することになっています。</p>
船越委員	<p>今は水道事業や下水道事業が大変だという時代ですが、和光市の事業経営は今のところ大丈夫そうですね。</p>
長坂会長	<p>料金の安さだけを売りにするのではなく、何かあったときのためにストックすることも必要だと思います。ただ安いというだけでは、経営は伸びないと思います。</p>
企業経営課長	<p>民間企業でしたら内部留保できますが、公営企業だと難しいかもしれませんね。内部留保できるといいですよ。市民への啓蒙活動として、安いということだけではなく、何かあったときには全力を尽くしてやりますのでご協力をお願いいたします、という体制も必要かもしれません。</p>
下水道課長	<p>そのあたりについていかがですか。内部留保については、最低限は必要だと思いますので、ある程度までは持っていないといけないと思います。ただし、いくらあればいいのかという判断は難しいです。</p>
上下水道部長	<p>資料4の3ページの中段の図、当期純利益と現金預金の表では、令和11年度に手持ちの現金が4億円という数字を必要最低限の妥当な金額として計画しました。たくさんあればいいというものではありませんので難しいですが。</p>
長坂会長	<p>下水道事業は、公営企業です。しかも、独占企業です。その点において、料金と内部留保については、自ずから無理はできないものであると思います。</p>
長坂会長	<p>基本的にはツーペイでいくとしても、色々な面を考慮しながらいくということですね。</p>

佐々木次長	上下水道ともにですが、内部留保の金額が多くなると料金を下げてほしいという声が出てきます。料金を下げてしまうと、人口減少等が発生した場合やりくりが大変になってしまうことも考えられるので、バランスをとりながらやっていかななくてはいけないと考えています。
長坂会長	料金は簡単に上げられませんからね。 その点についてもバランスを取りながらやっていただきたいところになりますね。他にございますか。
串田委員	一番気になるのは今後の老朽化対策です。 理化学研究所敷地内では、市がやっているようなカメラ調査を雨水管で行っているのですが、古いタイプのコンクリート製の雨水管なので、側面から木の根っこが入り込んだりしてしまい、水圧で根っこを切る手入れをしています。しかし、古いタイプのは耐性が弱いので、ある段階で何らかの措置をとる必要があります。 そういう意味で、長期的な老朽化対策も視野に入れて取り組んでもらいたいです。先ほど、ある程度のお金を残すという話もありましたが、長期的に見るとコンクリート製であればある段階でもろくなりますので耐用年数を見越して交換の計画を立てるなどをやってもいいと思います。 構造物の寿命については、市民があまり知らない部分ですので、市民への説明も必要です。説明等の前置きをして、やっていってもいいのかなと思います。
企業経営課長	管路に関しては同じようにカメラを入れて調査をし、内面補修と言って、内側から絆創膏を貼るように、内側にもう一つ管をつくるような補修をしています。
下水道課長	一年間に3 kmから4 km実施しています。市内の全長151 kmのうち、半分以上実施済みです。 素材は、鉄筋コンクリートもあれば比較的新しいものは塩ビ管もあります。 水道管とは異なり、下水道管はカメラが入るので、かなり高い割合で補修をしています。そのため、他市と比べてもアドバンテージがあると考えられます。今後も継続していきます。ご指摘のとおり、コンクリートの素材は永久的なものではありません。内面コーティングという方法もありますので、今あるものを活かしつつ延命化を図る取り組みをしていきたいと思っています。もちろん、場合によっては入替えもし、状況に合わせてやっていきます。
串田委員	それがアセットマネジメントですね。
下水道課長	はい、そうです。
串田委員	ありがとうございます。
長坂会長	他にご質問等はございますか。 無いようですので、事業報告等については終了いたします。 その他、事務局からはございますか。
企業経営課長	先ほどもお話ししましたとおり、12月頃に皆様に経営戦略の素案を送付いたしま

す。

次回の会議は、1月から2月頃に開催したいと考えておりますので、決まり次第、早々にご連絡いたします。よろしく願いいたします。

長 坂 会 長

それでは、以上で、第16回和光市下水道事業運営審議会会議を終了いたします。
ありがとうございました。

和光市下水道事業審議における会議録に相違ないことを証するため、会議録署名委員としてここに署名する。

令和2年 月 日

会議録署名委員 _____ 印

会議録署名委員 _____ 印